

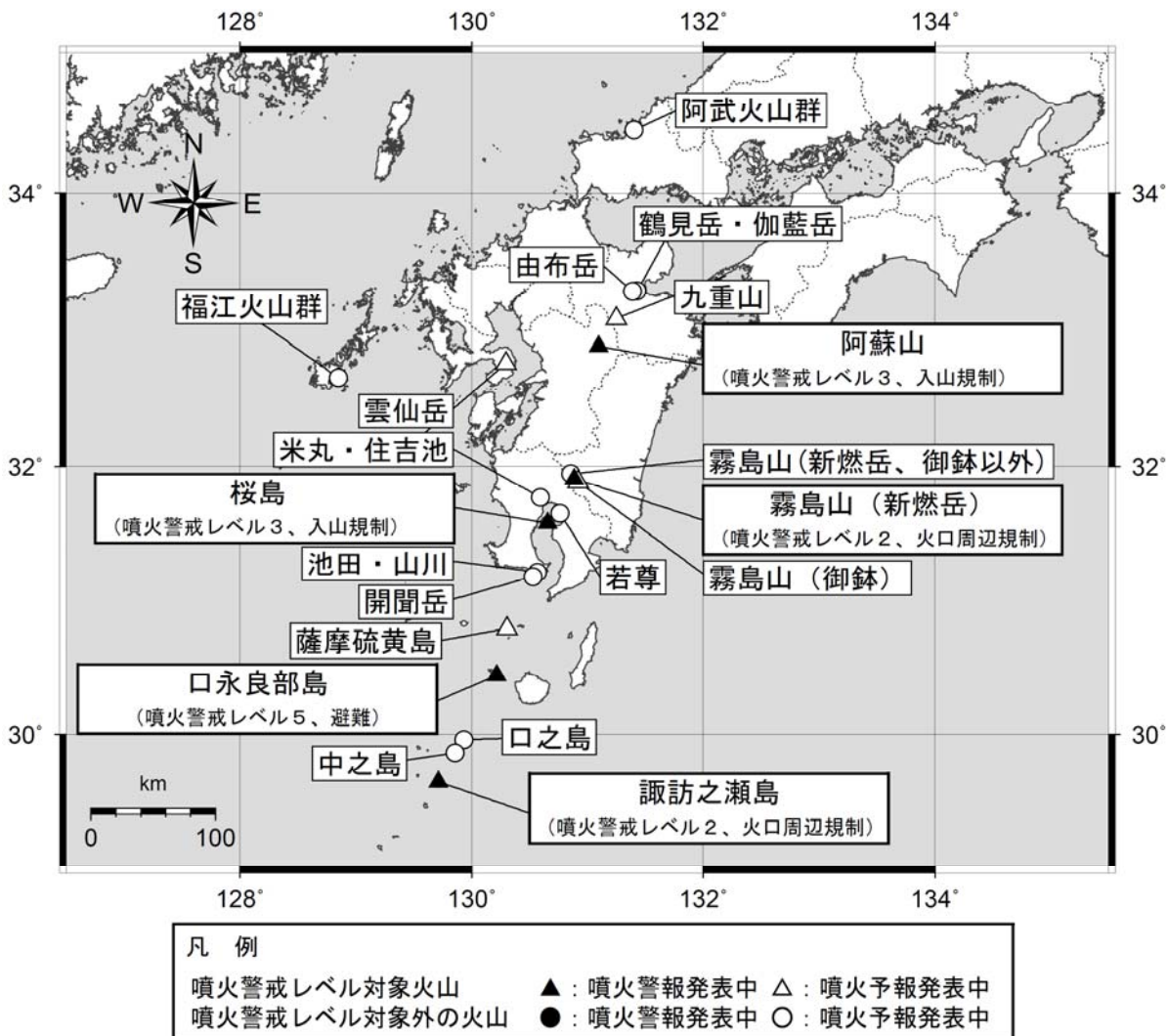
管内月間火山概況（平成 27 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（10月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島、阿蘇山
	レベル2（火口周辺規制）	霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、 福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、 米丸・住吉池、池田・山川、開聞岳、 口之島、中之島

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 27 年 11 月分）は平成 27 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

口永良部島では、10 月 21 日に噴火警報を発表し、警報事項を切り替えました（噴火警戒レベル 5（避難）は継続）。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

中岳第一火口では、23 日 02 時 59 分と 06 時 02 分に小規模な噴火が発生しました。02 時 59 分の噴火では、噴煙が火口縁上 1,400m まで上がり、火口周辺に大きな噴石が飛散するのを確認しました。06 時 02 分の噴火では、噴煙が火口縁上 1,600m まで上がりました。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いており、当分の間は 9 月 14 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が時々発生しました。

GNSS 観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに伸びの傾向がみられます。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥石流や土石流に注意してください。

霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、7 月頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） [噴火予報（活火山であることに留意）]

えびの高原（硫黄山）周辺では、7 月頃から振幅の小さな火山性微動が時々発生するなど、火山活動がやや高まってきていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

桜島では低調な火山活動となっていますが、これまでも繰り返し噴火活動が続いており、長期的な始良カルデラの膨張が認められます。このため、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられますの

で、今後の火山活動の推移に注意してください。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

さつまいおうじま

薩摩硫黄島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いていますので、火山灰等が噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

くちのえらぶじま

口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）及び火山現象に関する海上警報〕 ←21 日に噴火警報

を発表し、警報事項を切り替え（警戒範囲を噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲に縮小、噴火警戒レベル 5（避難）は継続）。

新岳では、6 月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていません。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

二酸化硫黄放出量はやや少ない状況でした。

地殻変動観測では、5 月 29 日の噴火以降に特段の変化は認められません。

火山活動が高まる傾向はみられないことから、5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものと考えられます。しかしながら、5 月 29 日の噴火前にみられた島の隆起が維持されていることから、引き続き噴火の可能性があり、火砕流にも警戒が必要と考えられます。このことから、平成 27 年 10 月 21 日に噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）を切り替えました。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地域（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

すわのせじま

諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

御岳火口では、2 日、13 日及び 31 日に噴火が発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。